

御船中学校の横のめんげ井手には、タナゴやフナがたくさんいます。コンクリートで護岸されていないため、川底には砂地が残っていて、ドブガイやタイワンシジミなども見られます。恐竜時代の御船の小川には、どんな魚たちがすんでいたのでしょうか？

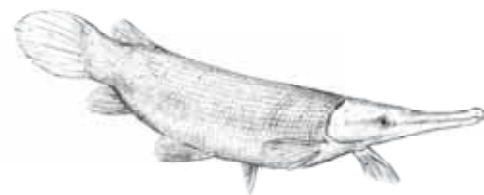
恐竜時代の御船の川底に積もってきた地層から、魚の鱗化石がよく見つかります。日本の白亜紀後期の淡水生魚化石の発見例はほとんどないため、御船の魚類化石はとても重要なものです。

ガーの仲間、北米に分布する「古代魚」で、恐竜時代は世界各地に生息していたことがわかっています。

恐竜時代への旅

第10話

淡水魚ガーのなかま



DATA

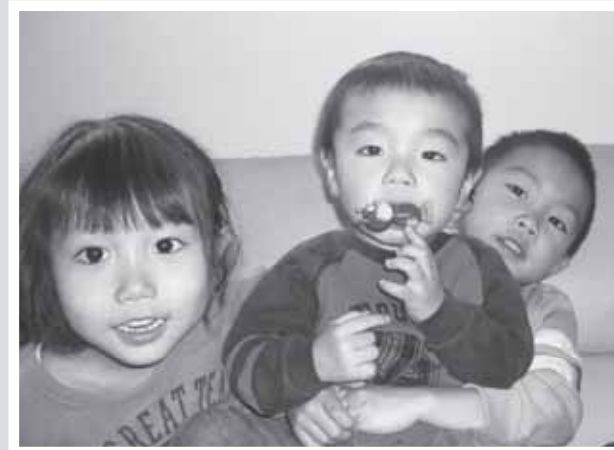
御船層群から発見されたガーの鱗化石（左上）と、その表面の電子顕微鏡写真（右上）。鱗の大きさは約1センチ。電子顕微鏡写真のスケールは20ミクロン（絵／同館・宮本厚子）

熱帯魚店でもときどき見かける魚で、厚い鱗を持ち、鱗の表面はエナメル質の層でおおわれています。成長すると全長が3メートルに達するものもいます。肉食で餌えなくなり放流されたものが、ため池や用水路などで捕獲される騒ぎも起こっています。

鱗のエナメル層の表面にはとても小さいイボが並んでいて、イボの形や配列のパターンは種類ごとに異なっていることが知られています。御船の鱗化石を電子顕微鏡で調べてみると、エナメル質の表面の特徴はガーの仲間に近いことがわかりました。また、ガーの仲間の特徴を持っている背骨の化石も発見されています。

（文・写真／恐竜博物館・池上直樹）

子育て日記



長男・弘輔くん（5歳・右）
長女・琉夏ちゃん（3歳・左）
次男・建奨くん（1歳・中）

大切な家族の時間

わが家の子どもたちはとにかく元気！！優しくてやんちゃな長男・弘輔とお世話好きでおてんばの長女・琉夏、そしてわが道を進む次男・建奨と3人とともにぎやかです。パパと休みが合わない子どもたち、休日の日課になっているのが「ぼくが…私が…」と上の子2人がパパへのお弁当の配達。「早く帰ってきてねえ〜」とメッセージ付きで届けます。親子の休みがあった日はパパは朝から大忙し。「パパサッカーしよう！鉄棒しよう！」と子どもたちの注文に応じて、遊んでくれている間に家事がはかどります。普段家族みんなで出かけることが少ないわが家なので、たまに出かけるとなると子どもたちの笑顔が輝きます。これからも家族みんなで過ごせる時間を大切に、子どもたちの成長を見守っていきます。

（文・写真／赤星涼子お母さん・滝川）

学校自慢

小坂小学校

体験活動を通して心を育んでいます

小坂小学校は3年前から平成音楽大学との交流をすすめています。本校とは車で約5分程度、徒歩でも20分程度ととても近い距離にあります。

交流は、学期一回の音楽交流会、歓迎遠足や部活動での交流などをおこなっています。音楽交流会では、素晴らしい演奏を聴いたり、一緒に歌ったりしながら楽しく活動しています。時には、本校にある楽器を使って演奏していただいたこともあり、みんな楽しみにしています。



平成音大の学生の演奏を楽しんでいます

また、本校は「食育推進校」にもなっています。どの学年も栽培活動に力を入れています。4年生では、総合的な学習の時間を活用して、水前寺菜「御船川」の栽培に取り組みました。みんなで水やりや草取りを頑張りました。「御船川」を使った団子、ゼリーづくりにも挑戦しました。

これからの音楽活動や栽培活動などを通して豊かな心を育てていきたいと思っています。



夏も「御船川」のお世話をがんばりました

（文・写真／小坂小学校）

Book 今月の本

キケン

有川 浩 著

成南電気工科大学にある「機械制御研究部」なるサークル。彼らの巻き起こす数々の事件。その伝説的黄金時代を描いた物語である。



メモリー・ラボへようこそ

梶尾 真治 著

不思議な記憶移植の研究所「メモリー・ラボ」を舞台に繰り広げられる、思いっきりスイートでちょっぴりビターな「愛の記憶」の物語。



新刊書情報

2月は8冊の本が入りました

- 一般書（8冊）
- エッセイ／一步を越える勇氣（栗城 史多 著）
- 詩／手紙（樋口 了一 著）
- 料理／伝えていきたい日本の味（栗原はるみ 著）



かぜっぴきのドラゴンたち

シェリー・ムーア・トーマス 文
ジェニファー・プレカス 絵
灰島かり 訳

風邪をひいたドラゴンたちを助けようと優しく勇敢な騎士が大活躍。魔法使いが作ったおいしいそうな！？スूपがとっても楽しいお話。

（七瀬中央小・ななたき）

